

渡 辺 義 介 賞



合同製鉄(株)代表取締役会長

池 田 正 君

**製鉄技術の進歩向上、製鉄所の近代的操業管理並びに
中規模鉄鋼業の育成**

君は昭和 12 年 3 月京都帝国大学工学部冶金学科を卒業後直ちに日本製鉄(株)に入社、八幡製鉄所において製鋼分野にたずさわり、次いで八幡製鉄(株)本社製鋼課長、作業課長、八幡製鉄所管理局第三部長を歴任し、戸畑製造所の新設にあたり臨時戸畑企画部長、技術部長兼工程部長ついで戸畑製造所長を歴任し、その後(株)ミナスジェライス製鉄所へ技術担当取締役として派遣されて新規一貫製鉄所の建設と操業指導に従事した。その間八幡製鉄(株)取締役となつた。

帰任後、本社技術開発、研究を管掌、次いで常務取締役光製鉄所長、再び本社に帰つて生産、技術、研究を管掌した。昭和 45 年新日鉄の発足にあつては常務取締役として技術開発、海外技術協力、研究を管掌した。

ついで、昭和 48 年大阪製鋼(株)取締役社長に就任し、合同製鉄(株)の発足にともない、同社代表取締役社長、次いで同社代表取締役会長に就任し現在に至つている。

この間、君の主要な業績を述べれば以下の通りである。

1. 製鉄技術の進歩向上

君はつとに特殊鋼の分野においてはその精錬技術の向上に力を傾けたが、製鋼部門においては、当時開発途上にあつた平炉における酸素の有効利用方式の確立につとめ、またわが国最初の OG 法を採用した純酸素転炉工場の建設、操業方式の確立をはかつた。

さらに、新日鉄の発足にともない、常務取締役として技術開発研究に関する事項を管掌し、近代的技術開発の指針確立に貢献した。ついで、大阪製鋼(現合同製鉄)

においては小型高炉の特性を生かした原燃料の配合によつて、原単位、原価を低減する操業技術を確立した。

2. 製鉄所の近代的操業管理

君は昭和 32 年臨時戸畑企画部長として、戸畑地区鉄鋼一貫工場群の管理方式にラインスタッフシステムによる新管理方式の導入を推進し、37 年 5 月には製造所長として所の運営にあつた。

新管理方式は機能の専門化と管理の一貫性の確保を基本として、機能別の分業組織をとり、作業に専心する製造部門と一貫管理の立場に立つ技術管理および設備の保全を担当する整備部門を軸として、統合的かつ効率的な工場運営をおこなつた。またわが国最初の作業長制度を創設し、作業員から管理職への登用の途をひらいた。

3. 中規模鉄鋼業の育成

君は昭和 48 年新日鉄から大阪製鋼(現合同製鉄)社長に就任したが、厳しい経営環境に対応すべく、いちはやく徹底した効率化経営を目指し、企業体質の強化に大きな指導力を発揮した。

また、業界の将来における発展、経営基盤の安定を確立するためには、平電炉業界の再編成による過剰設備の廃棄統合しないと確信し、昭和 52 年 6 月に電炉メーカーの大谷重工業を合併し、社名も合同製鉄として発足させ、続いて昭和 53 年 4 月に同じく日本砂鉄鋼業及び江東製鋼を合併した。

新会社の発足が一つのモデルケースとして、業界に寄与した功績はまことに偉大であり、その実現にあつて果たした役割は極めて多大であつた。